

# 2026 年度 向上心育成委員会

委員長 千原 彬美

## 1. 運営方針

目的地へ向かうとき、どの道で何を使って向かうのか。多くの人は自分で考え行動していることでしょう。しかし、それを誰かに委ねていると、困難に直面したときに解決のため自ら考え動くことができるでしょうか。もし通れない道があったとしたら、通れるようにしてくれるのを待つのか、そもそも通れない道に気づかないままかもしれません。熊谷青年会議所は、地域の課題を解決し、地域を導く人財を育てる組織です。熊谷青年会議所の会員一人ひとりが地域の未来を自分事として考え行動し、地域により良い変化を生み出す組織となることが重要と考えます。

熊谷青年会議所の運動を導いてきた運動指針（2022－2026 年）は、まもなくその期間を終えようとしています。運動指針は、これまでの運動の方向性を示す羅針盤として組織を導いてきましたが、その区切りを迎える今、次に向かうべき目的地が定まらなくなる可能性があります。理念を継承しながらも、これから時代に即した新たな方向性を全員で考え直すことが求められています。方向性を誰かに示してもらうのではなく、自ら考え、共有し、行動に移していく。その過程こそが、次の時代を担う熊谷青年会議所の力を生み出すものとなると考えます。

本年度、向上心育成委員会では「自分をみつめる、熊谷をみつめる」をテーマに、運動指針の見直しと歴史の振り返りを通して会員の主体性を高め、未来の熊谷に向けた行動を促します。75 周年を翌年に控える今こそ、これまでの運動の歴史と成果を整理し、熊谷の現状と照らし合わせて、次の時代にふさわしい運動の方向性を全員で考えることが重要なです。その過程において、会員一人ひとりが熊谷の現状を自らの目で確かめることで、地域の未来に対し自ら考え行動できる人財を育成し、熊谷青年会議所が地域により良い変化を生み出す組織となることを目指します。

熊谷青年会議所会員の一人ひとりが運動に主体的に関わり、自らの考えを言葉にし、行動に移すことで、組織に新たな推進力が生まれます。また、会員皆で考えた熊谷の未来のビジョンを共有し、会員が自ら進んで一つの方向に向かい運動を行うことにより信頼と共感が生まれ、地域により良い変化を生み出すことにつながります。そして信頼と共感の輪が広がることにより、まちの一人ひとりの行動を変えていくことができると考えます。自分をみつめ、熊谷をみつめること。その過程で得られる気づきと行動は、次の時代を照らす新たな道標となり、熊谷が自分らしく、心豊かに暮らせるまちになっていると確信し、運動を進めてまいります。

## 2. 事業計画

- (1)運動指針の検証、2027 年度以降の運動指針を検討するための全体ミーティングの実施
- (2)周年の必要性、熊谷青年会議所のこれまでの運動の成果や歴史を振り返る例会の実施
- (3)地域の課題を自ら設定し、解決策を考案・実践することで、自分事として捉えられる例会の実施
- (4)未来の熊谷に期待を描き、新しい運動指針実現へつながる行動を促す例会の実施